

平成23年2月4日
消費者庁

消費生活用製品の重大製品事故に係る公表について

消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告のあった重大製品事故について、以下のとおり公表します。

1. ガス機器・石油機器に関する事故 7件
(うち開放式ガス温風暖房機(都市ガス用)1件、石油ストーブ(開放式)2件、
屋外式(RF式)ガス給湯付ふろがま(都市ガス用)1件、
石油温風暖房機(開放式)1件、開放式ガス瞬間湯沸器(都市ガス用)1件、
石油給湯機付ふろがま1件)
2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、
製品起因が疑われる事故
該当案件無し
3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、
製品起因か否かが特定できていない事故 4件
(うち電気カーペット1件、介護ベッド用手すり1件、エアコン(室外機)1件、
哺乳瓶1件)
4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故公表等調査会及び第三者
委員会合同会議(※)において、審議を予定している案件
該当案件無し

1. ~ 4. の詳細は別紙のとおりです。

※正式名称は「消費者委員会消費者安全専門調査会製品事故情報の公表等に関する調査会及び消費経済審議会製品安全部会製品事故判定第三者委員会合同会議」という。

5. 留意事項

これらは消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づく報告内容の概要であり、現時点において、調査等により事実関係が確認されたものではなく、事故原因等に関し、消費者庁として評価を行ったものではありません。

本公表内容については、速報段階のものであり、今後の追加情報、事故調査の進展等により、変更又は削除される可能性があります。

6. 特記事項

(1) 株式会社コロナが製造した石油ストーブ（開放式）について

（管理番号A201000904及びA201000905）

① 事故事象及び再発防止策について

株式会社コロナが製造した石油ストーブ（開放式）において、給油タンクに給油後、当該製品に戻そうとした際、灯油がこぼれ、引火する火災が発生しました。

当該事故の原因は、現在、調査中ですが、同社製石油ストーブ及び石油ファンヒーターのうち、平成12年以前に製造された製品のカートリッジタンク（よごれま栓タンク）（下記②参照。）については、長期間の使用による給油口の変形などの要因により、給油口がロックされたと使用者が誤認する「半ロック状態」になる事象が発生することが確認されています。

石油ストーブ等の給油作業時に、給油口ふたのロック確認を行わなかった場合、給油タンクの給油口が「半ロック状態」で維持されていたことで、ストーブ等に戻す際にふたが開き、灯油がこぼれて火災になる可能性があることから、同社は、平成20年9月17日にプレスリリース、翌18日に社告を実施し、石油ストーブ等に付属するカートリッジタンク（よごれま栓タンク）使用時の注意喚起をするとともに、以降、販売店の店頭及び消費者へのアフターサービス訪問時におけるチラシ配布、テレビCM等により、平成12年以前に製造された石油ストーブ等の給油タンクについて、無償点検・修理を呼び掛けています。さらに、本年においては、これまでの対策に加え、2月から灯油販売所への店頭チラシの配布、製品購入時におけるチラシの同梱を行う予定です。

② 対象製品等：製品名、機種・型式、製造期間、製造台数

- (i) 対象製品名 : コロナ石油ストーブ等に付属のカートリッジタンク（よごれま栓タンク）
- (ii) 機種・型番 : ワンタッチ式給油タンクを有するコロナ石油ストーブ等で平成12年以前に製造された製品
- (iii) 製造期間 : 昭和62年（1987年）～平成12年（2000年）

石油ストーブ(反射型)

製造年(西暦)	型 式			
1987	SX-1800DX	SX-2200DX		
1988	SX-1800	SX-2200	SX-1800DXA	SX-2200DXA
1989	SX-1810	SX-2210	SX-3000	
1990	SX-1820	SX-2220	SX-3020	
1991	SX-1840	SX-2240	SX-3040	
1992	SX-1850	SX-2250	SX-2250X	SX-3050
1993	SX-1860	SX-2260	SX-3060	
1994	SX-1870	SX-2270	SX-3060	
1995	SX-1880Y	SX-2280Y	SX-3080Y	
1996	SX-1800Y	SX-2200Y	SX-3080Y	NX-22Y
	RX-D18Y			
1997	SX-B21Y	SX-B26Y	SX-B35Y	SX-B27WY
	NX-26Y	RX-B21Y	RX-B26Y	
1998	SX-C210Y	SX-C260Y	NX-26Y	
1999	SX-D27WY			
2000	SX-E210Y	SX-E260Y	SX-E21Y	SX-E26Y
	SX-B35YA	SX-D27WYA	NX-26YA	KM-D27WY










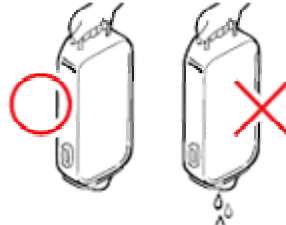

石油ファンヒーター

製造年(西暦)	型 式			
1993	FH-3360AYL			
1994	FH-2570Y	FH-3270Y	FH-3370AYL	GT-2570Y
	GT-3270Y	FK-F250	FK-F320	KH-A25Y
	KH-A32Y	KH-3207Y		
1995	FH-2580Y	FH-3280Y	FH-5580Y	FH-2580AY
	FH-3380AY	NH-2580Y	NH-3280Y	GT-2580Y
	GT-3280Y	KH-B25Y	KH-B32Y	FK-G250
	FK-G320	AH-3280Y		
1996	FH-A30Y	FH-A37Y	FH-A47Y	FH-A60Y
	FH-A30AY	FH-A37AY	NH-A30Y	NH-A37Y
	GT-A30Y	GT-A37Y	GT-A30YJ	KH-A30WS
	KH-A37WS	KH-C30Y	KH-C37Y	FK-H30
	FK-H37			
1997	FH-B30AY	FH-B37AY	FH-B30BY	FH-B40BY
	FH-B50BY	FH-B62Y	NH-B30BY	NH-B40BY
	GT-B30BY	GT-B40BY	KH-B30WS	KH-B40WS
	KH-D30BY	KH-D40BY	FK-J30	FK-J40
1998	FH-C320BY	FH-C430BY	FH-C530BY	GT-C30Y
	GT-C32BY	GT-C53BY	FK-K32	FK-K53
	KCF-A300			
1999	FH-D320BY	FH-D430BY	FH-D530BY	FH-MD30Y
	GT-D30Y	GT-D32BY	GT-D43BY	GT-D53BY
	GT-EG30Y	GT-KS30Y	FK-L30	FK-L32
	FK-L43	FK-L53		
2000	FH-E62Y	FH-EX32BY	FH-EX43BY	FH-EX53BY
	FH-ES32BY	GT-E30Y	KM-30Y	KS-E30Y
	FK-M30	FK-M32	FK-M43	FK-M53
	FJ-V30Y			

(iv) 製造台数 : 石油ストーブ 2, 090, 000台
石油ファンヒーター 4, 270, 000台
計 6, 360, 000台

(v) 改修率

1. 4% (平成22年12月31日現在)

 警告	 給油時消火	 危険	 ガソリン厳禁	
●給油は、必ず消火し、火が消えたことを確かめてからおこなってください。火災のおそれがあります。 		●必ず灯油をご使用ください ●ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。		
 警告	 油もれ危険			
●給油後、油タンクの給油口を確実にロックし、開かないことを確認してください。		●給油後は、給油口を下にして油もれないことを確認してからストーブにセットしてください。		
①確実にロック 「パチン」と音が 強く押す するまで強く押す 		②ロックの確認 持ち上げて確認 給油口をしめたあと、先端を指で持ち上げ、開かないことを確認してください。 		③油もれの確認 
	【製造年の表示位置】 △△年製	【対象製品の製造年】 2000年製 00年製 ? 1996年製 96年製* 及び 製造年表示のないもの ※ファンヒーターについては94年製		

③消費者への注意喚起

上記対象製品をお持ちで、まだ製造事業者の行う無償点検・修理を受けていない方は、下記問い合わせ先に速やかに御連絡ください。

当該製品に限らず、石油ストーブ等に給油する際には、石油ストーブ等を必ず消火した上で、給油タンクのふたを確実に締め、ふたが締まっていることを確認して、石油ストーブ等に戻すよう、正しい給油方法に従って安全に給油を行ってください。

(株式会社コロナの問い合わせ先)

フリーダイヤル：0120-623-238

受付時間：午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く。)

ホームページ：<http://www.corona.co.jp/>

(2) 介護ベッド用手すりについて

(管理番号A201000908)

①消費者への注意喚起

使用者（70歳代男性）の左腕が、ベッドのヘッドボード（頭側のついたて）と当該製品の間から外に出て、首が当該製品とヘッドボードのすき間にあった状態で発見され、窒息による死亡が確認された事故が発生しました。本件事故の原因は不明ですが、介護ベッド手すり（ベッドサイドレール）の使用に際しては、ベッドサイドレールの中のすき間に頭、腕や足が入る事故、ベッドサイドレールとベッドサイドレールのすき間に頭等が入る事故のほかに、本件事故のように、ベッドサイドレールとヘッドボードのすき間に頭等が入る事故も発生しています。ヘッドボードとベッドサイドレールとの間やフットボードとベッドサイドレールとの間にすき間がある場合には、クッションなどを入れて、すき間を埋め、頭、腕や足が入らないよう、介護の現場においては、必ず安全対策をとるようにしてください。

平成21年3月には、介護ベッドの日本工業規格（JIS）が改正され、頭・首の挟み込み事故を防ぐためのすき間の基準強化が図られています。重大な被害に至る事故の発生を防止し、安全を確保するために、必ず簡易部品を使用するか、挟み込み・入り込みが起きにくい改正されたJISに対応した製品に変更してください。介護ベッド用手すりを使用する方々及び使用者を介護する方々には、取扱説明書、製品の注意表示、製造事業者及び業界団体のホームページ、チラシなどに記載されている注意事項を今一度、御確認いただき、製品に関するリスクを認識し、正しく使用してください。

製品の使用の際に、不具合や不安等がある場合には、製造事業者又は販売事業者等に速やかに御連絡・御相談ください。

日本福祉用具・生活支援用具協会及び医療・介護ベッド安全普及協議会においては介護ベッドのサイドレール・手すり等による事故等についての注意喚起の呼び掛けを行っておりますので御覧ください。

（日本福祉用具・生活支援用具協会のホームページ）

URL：<http://www.jaspa.gr.jp/>

（医療・介護ベッド安全普及協議会のホームページ）

URL：<http://www.bed-anzen.org/>

（本発表資料の問い合わせ先）

消費者庁消費者安全課

（製品事故情報担当） 担当：小林、中嶋、榎本

電話：03-3507-9204（直通）

（事故情報対応チーム） 担当：金児、滝

電話：03-3507-9146（直通）

（株式会社コロナが製造した石油ストーブ（開放式）についての発表資料に関する問い合わせ先）

経済産業省商務流通グループ製品安全課製品事故対策室

担当：宮下、中村、野中 電話：03-3501-1707（直通）

1. ガス機器・石油機器に関する事故(製品起因か否かが特定できていない事故を含む)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201000902	平成23年1月21日	平成23年1月31日	開放式ガス温風暖房機(都市ガス用)	PG-33F	パロマ工業株式会社	火災	当該製品を使用中、当該製品上部から出火する火災が発生し、当該製品が一部焼損した。現在、原因を調査中。	東京都	
A201000904	平成22年12月24日	平成23年1月31日	石油ストーブ(開放式)	SX-C260Y	株式会社コロナ	火災	当該製品を消火せずに給油タンクを抜き、給油後、給油タンクを戻す際に灯油がこぼれ、当該製品が焼損した。給油時の状況も含め、現在、原因を調査中。	愛知県	事業者が事故を認識したのは、1月19日 平成20年9月17日からリコールを実施 改修率 1.4%
A201000905	平成23年1月10日	平成23年1月31日	石油ストーブ(開放式)	SX-3020	株式会社コロナ	火災 軽傷1名	当該製品の消火操作をした後、給油タンクを抜いて給油し、給油タンクを戻す際、給油タンクの入りが悪かったため、再度抜いたところ、灯油がこぼれて当該製品が焼損、建物が半焼する火災が発生し、消火の際に1名が負傷した。現在、原因を調査中。	兵庫県	平成20年9月17日からリコールを実施 改修率 1.4%
A201000906	平成23年1月20日	平成23年1月31日	屋外式(RF式)ガス給湯付ふろがま(都市ガス用)	WF-804AT	株式会社ハウステック	火災	当該製品及び周辺が焼損する火災が発生した。事故時に周辺でエレベーター設置工事を実施していた。電気溶接作業時に、工所用発電機から外部に流れる電流が発生し、当該製品に影響を及ぼした可能性も含め、現在、原因を調査中。	福岡県	

1. ガス機器・石油機器に関する事故(製品起因か否かが特定できていない事故を含む)(続き)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201000907	平成22年12月29日	平成23年1月31日	石油温風暖房機 (開放式)	LC- L347(RO)(W)	株式会社トヨミ	火災	当該製品の給油タンクに給油後、点火し、その場を離れ、しばらくすると当該製品の警報が鳴動した。運転スイッチを切ったが、異臭がしたため確認すると、当該製品の下部から出火する火災が発生しており、当該製品及び周辺が焼損した。現在、原因を調査中。	神奈川県	
A201000909	平成23年1月17日	平成23年2月1日	開放式ガス瞬間湯沸器(都市ガス用)	PH-55A	パロマ工業株式会社	火災 軽傷1名	当該製品に点火したところ、爆発が生じ、当該製品及び周辺が焼損、1名が負傷する火災が発生した。ガス配管から漏れたガスに引火した可能性も含め、現在、原因を調査中。	佐賀県	平成23年1月19日に経済産業省原子力安全・保安院にて公表済
A201000912	平成23年1月17日	平成23年2月2日	石油給湯機付ふろがま	JIB-7S	株式会社長府製作所	火災	入浴時に当該製品で追い焚きしたところ、燃焼ランプは点灯したが、着火音はしなかった。その後燃焼ランプが消え、再度点灯したが、ブレーカーが作動したため確認すると、異臭とともに当該製品が焼損する火災が発生していた。現在、原因を調査中。	愛知県	製造から15年以上経過した製品

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故

該当案件無し

3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201000903	平成23年1月23日	平成23年1月31日	電気カーペット	火災 軽傷1名	当該製品の上にカバーを敷き、毛布及び布団を掛けて就寝中、発煙及び出火に気付き確認すると、当該製品及び周辺が焼損する火災が発生しており、消火の際に1名が火傷を負った。当該製品のヒーター線が断線していた状況も含め、現在、原因を調査中。	長崎県	
A201000908	平成23年1月19日	平成23年1月31日	介護ベッド用手すり	死亡1名	使用者(70歳代男性)の左腕が、ベッドのヘッドボード(頭側のついたて)と当該製品の間から外に出て、首が当該製品とヘッドボードのすき間にあった状態で発見され、窒息による死亡が確認された。事故発生時の状況も含め、現在、原因を調査中。	福島県	事業者名: パラマウントベッド株式会社 機種・型式: KA-16 当該事故は、製品起因か否かが特定できていないものである。 当該製品は、平成4年から平成12年までの間に、パラマウントベッド株式会社が製造したものである。 本件事故は、首が当該製品とヘッドボードのすき間に入り込んでいたのか、乗った状態であったかは不明とのこと。 当該製品の使用者・所有者・管理者に向けて事故の危険性を周知し、当該製品とヘッドボードのすき間を埋める安全対策を着実に促すため事業者名及び機種・型式を公表するもの。
A201000910	平成23年1月7日	平成23年2月1日	エアコン(室外機)	火災	エアコンを使用中、室外から異音が生じ、ブレーカーが作動したため確認すると、当該製品及び周辺が焼損する火災が発生していた。当該製品から出火したのか、他の要因も含め、現在、原因を調査中。	千葉県	製造から10年以上経過した製品
A201000911	平成23年1月22日	平成23年2月2日	哺乳瓶	重傷1名	保護者がミルクの授乳時に、追加で作ろうと、その場を離れ戻ったところ、当該製品が破損し、割れた当該製品の破片を乳児(1歳8ヶ月女児)が踏んでおり、負傷した。当該製品が破損した状況も含め、現在、原因を調査中。	広島県	

4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故公表等調査会及び第三者委員会合同会議において審議を予定している案件

該当案件無し